

# 当日配付資料

- 募集期間 1月21日(月)～2月12日(火)
- 提出者 1名(方法：メール1名)
- 意見数 1件  
(内訳：地域福祉拠点の配置 1件)

通番	意見(要旨)	本市の考え方
1	<p>これからの少子高齢社会に向けての指針となる第二期地域福祉活動推進計画に期待しています。正に団塊の世代真只中の私どもにとって、目前に迫る超高齢化社会は将来の暮らしに対する大きな不安材料となっています。歳がいった今のように自由に動くことができなくなる時が、目前に迫っていることを日々実感しています。私たちはそんな思いを持ち寄って「秦2025年問題検討委員会」を組織し、地域における高齢者福祉のあり方を探ってきました。そしてこの活動で、時代を生きて行くために「地域包括ケアシステム」と「共生社会」の必要性を学び、そしてこの考えを地域で共有することを進めてきました。</p> <p>今回の計画案で、私が特に注目することは、基本目標に挙げられた「地域力の強化」です。地域の中で、お互いに助け助けられつつさまざまな活動に取り組んで、それが当たり前の社会になっていくことが理想です。計画案で一層の住民主体の取り組みが勧められ、その活動を行政が積極的に支援する姿勢を伺うことができ、大変心強く思っています。</p> <p>一方、行政が取り組む支援サービスの在り方、基盤整備について物足りなさを感じます。既存の社会システムを再構築することが求められる中で、行政の地域福祉サービス体制も変革が迫られているのではないのでしょうか。</p> <p>現在東西南北のブロック圏域に福祉拠点が置かれていますが、これからはより住民に近いところに福祉拠点の必要性を感じています。中地域圏域において地域の特性を反映した形で施策を進めて行って欲しいと思います。</p> <p>秦地区で言えば、例えば、なごやか宅老所「秦の里」を拡充して、秦地区を担当する「北部高齢者支援センターいずみの出張所」と市社協の地域福祉コーディネーターのデスクをここに置くことができれば、より細かな地域情報が集約され、住民活動の支援とガバナンスを充実させることができるのではないかと考えます。全市的には、具体的な方法論を地域の状況に合わせて柔軟に考えて整備を進めることが可能だと思います。</p> <p>エリアの捉え方を中地域圏域にシフトして、それぞれに相応しい形の地域福祉拠点を配置することを、今回の計画に盛り込むことができないのでしょうか。</p>	<p>本市の第2期地域福祉活動推進計画に対しまして、ご期待をお寄せいただくとともに、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>第2期計画では、住民に身近な町内会や自治会、隣近所などの小地域圏域における助け合い・支え合いを基本としながら、地域福祉課題に応じた重層的な圏域を適切に設定し、取組を進めていくこととしております。</p> <p>今回の計画では、複雑・多様化している住民の困り事への支援のあり方が課題となっておりますので、これまで東西南北のブロック圏域を基本に設置しておりました高齢者支援センターを、行政区を基本とする住民に身近な14のエリアに再編するとともに、高齢者分野以外の相談にも一定対応する包括的支援に向け機能強化を図ることとしております。</p> <p>また、住民が様々な困りごとを相談できる「(仮称)なんでも相談窓口」を、第2期計画の最終年度である2024年度までに、中地域圏域ごと市内40か所に設置いたしまして、複合的な課題を住民に身近な場で一元的に受け止め、そこに集まった地域課題を集約し、多くの専門機関の協働によるネットワークにより解決を図っていく、つながりのある包括的支援体制を構築してまいります。</p> <p>加えて、地域共生社会を実現していくためには、住民の主体的な地域課題解決に向けた取組を通じ、地域力を強化していくことが必要となりますので、住民活動の拠点として、既存の公共施設等の有効活用や、地域福祉コーディネーターなどによる適切な支援等、地域の社会資源の実情を踏まえ、市・市社協が一体となり積極的に住民活動を後押ししながら、第2期計画の推進に努めてまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願いいたします。</p>